

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3170100923		
法人名	社会医療法人明和会医療福祉センター		
事業所名	グループホーム つばきはうす		
所在地	鳥取市覚寺180番地		
自己評価作成日	平成22年7月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=33690">http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=33690</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人鳥取社会福祉評価機構		
所在地	鳥取県鳥取市湖山町北2丁目116		
訪問調査日	平成22年7月22日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

個々のニーズや認知症の状況に応じて柔軟に対応できるような働きかけや取り組みを行ないながら、利用者主体の生活が送れるよう心がけ個々の能力を引き出す関わりを行なっている。利用者にとっては安心して安全に過ごせる場となるよう、ご家族の協力も得ながら外出や外泊の支援も積極的に行い、家族と過ごす時間やつながりも大切にしている。昔ながらの風習や毎月の行事、誕生会、定期的な地域の子供たちやグループ、住民との交流、ボランティアの来訪など色々な楽しみを感じたり、刺激が得られるよう、様々な方たちに支えて頂きながら生活が送れていると感じる。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

職員は事業所の理念を良く理解しており、日々のケアの中で理念が実践できるかを絶えず考えて行動し、地域との交流の大切さも理解しており、ボランティアを受け入れ地域の方々との日々のふれあいを大切にしている。食事時にも姿勢を直すために座布団を当てたりと細かなところに気を配るケアができています。いつでも希望する時間に入浴することが出来、利用者やご家族の意見を取り入れて家具の配置を変えたり、常に何が必要なかをスタッフ会議やミーティングで検討している。災害対策は防火管理者の選任を行い防火設備も整っており、各種の避難訓練も行われている。ご家族アンケートでもご家族はほぼ満足している様子が伺われています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の尊厳、家庭的な環境、家族や地域との関わり等、職員全員が理念に基づくグループホームの在り方を認識し、より良いサービスに繋げていけるよう、日頃から意見交換やミーティング等で理念を共有し実践につなげている。	人間としての尊厳を守り、地域との交流の中で家庭的で楽しい環境を提供するという理念を掲げており、管理者は月に1回のスタッフ会議で理念を話しており、日々の取り組みのなかでもその都度具体化した形で伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民で作る組織や活動、幼稚園児との定期的な交流がある。公民館便り、地区の社協便りなどの配布があったり、公民館行事や地域の運動会等に招待されたり、グループホームの行事にボランティアや地域、家族の参加をお願いしたり日常的に地域とのつながりを意識しながら交流の機会を持っている。	地元自治会には開設以来加入しており、地元との信頼関係は築かれている。民生委員や町内会長等の差し入れでの立ち寄りも多く、施設主催の行事又、地域主催の行事への参加も多くあり、双方向の交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	季刊誌の発行や定期的な運営推進会議においてホームの現状や取り組みを報告したり様々な意見交換の中で地域の具体的な高齢者の問題などの情報も知ることができ、意見交換が活発に行っている。グループホームとしての役割を果たすよい機会が作れていると感じる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催し、利用者のご家族や地域の代表の方々、市の職員、病院関係者等多くの方の参加により回を重ねる毎に様々なご意見やアドバイスを頂け、理解も深まっている。私達にとってサービスだけでなく意欲の向上にもつながっていると感じる。	運営推進会議は定期的に行われており、行政、地元住民、医療関係者等多彩な参加者を得て活発に意見交換されている。消防署から火災事例に基づいた講習もあり、有意義な会議になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に施設長が行政の窓口となり幅広く情報交換をさせていただいているが、その他にも市の担当者より重要事項のメールが届いたり、運営推進会議にも参加いただき運営状況や実態を把握していただきご意見を頂くなど協力関係を築いている。	施設長が広報誌を鳥取市に持参したり、入退去の報告を行っており、鳥取市の担当者からも連絡事項等のメールがあり、市町村との連携は十分に取れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が身体拘束をしないケアを理解し取り組んでいる。日中は施錠せず自由に入出入りでき徘徊のある方についても、本人の行動に寄り添い、一緒に歩いたり利用者本位の生活を心がけている。夜間のみ防犯上の観点から玄関を施錠している。	身体拘束排除に関する研修は年に3回は行っており、参加できなかった職員への伝達講習も行われている。すべての職員が身体拘束の弊害を理解しており、ご家族から扉を閉めて欲しいとの要望があっても話し合ってお互いに理解をいただいている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の学びを深めるとともに、利用者の尊厳を守る努力と、ゆとりが持てる環境を作り、職員同士で関わりを学んだり、注意しあうことにより、認知症の方に重要な言葉かけの関わりにも注意する姿勢で日々の介護にあたっている。法人内ではコンプライアンス制度もあり、事業所内で報告し難しい場合でも相談し易い体制をとっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用している利用者が1名おられ、本人の疑問等に対応できるよう、様々な機会において学んだり研修参加などしている。また法人内ソーシャルワーカーがスタッフ会議に参加し、必要に応じて制度を活用できるよう支援する体制がとれている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に利用者、ご家族に見学に来ていただいたり、説明を行なっている。また契約の際にも契約の内容を十分に説明し、不安や疑問、意向等を聞きだしながら納得を図っている。また制度の改正などによる契約上の変更についても説明の上理解して頂いている。管理者以外の職員も内容の理解に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・ご家族共に、日常的に意見を言いやすい関係作りを努めている。家族の来訪時や家族会、運営推進会議などで積極的に意見、要望を聞き出して、外部の方へも意見を伝えられる機会となっている。またそれらを毎月の個々のケアプランや運営に反映している。ご意見箱も設置してある。	利用者やご家族は積極的に意見が言いにくいということすべての職員は理解しており、ご家族の来訪時には十分に時間をとっており、お見送りもして、いつでも来ていただけるように対応している。利用者からの意見に基づいて食事時のテーブルの配置を変えたり、新たに休憩場を設けたりしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングやスタッフ会議で職員が意見を出せる機会があり、話し合いの中で職員が決めていくことを大切に、実践していく形をとっており反映しやすいと感じる。日頃コミュニケーションをとり、意見や提案を連絡ノートを使って共有し活用している。	月に1回のスタッフ会議や年に1回の個別面談で職員の思いをじっくりと聞いている。日々の中ではミーティングや連絡帳でコミュニケーションを図っている。職員の意見によりテレビの位置を変更したり、玄関にセンサーを着けたり色々工夫している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は日頃から管理者や職員とコミュニケーションを図り、個々の意見や現状の把握に努め、向上心を持ったり、働きやすい環境づくりをしている。スタッフの少ない部署で1人あたりの業務は多いが、職員同士が信頼し、協力し合える環境が作れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の経験や習熟度に応じた内外の研修参加を進め、自己啓発や段階的に役割を担っていくことで力量を増していけるような環境がある。最近は自主的な研修参加も増え意欲も高まっていると感じる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入しており相互研修などで同業者の取り組みやケアサービスを学んでいる。時々電話などで取り組みの意見交換をしたり、また法人内のグループホームとは交流をもったり職員同士の意見交換や勉強会も積極的に行われ伝達も行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に訪問調査を行い情報収集することで、本人の要望や状態をよく知り必要なサービスを考えている。また事前に施設見学と一緒に過ごす機会を作ったりして安心して入居できるよう環境づくりや関係作りに配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に本人と一緒に施設見学に来て頂いたり、事前に家族からも不安や要望をお聞きした上で、実際のご本人の状況と合わせて判断し具体的にどのように対応していくか、話し合うよう心がけている。入居後も家族の言葉に耳を傾け、要望の変化に対応していけるよう関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前からの調査での情報や本人、家族の意向をしっかり把握しケアプランを作成しそれを元に具体的支援内容を検討し同意を得ており、導入段階では安心して受けられるサービスとなるよう心がけている。また必要と思われるものが出てきた場合は介護支援専門員やソーシャルワーカー等と相談しながら他のサービスも利用できるか検討し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	様々な面において一緒に行く、一緒に楽しむ等、共に暮らす意識を持ち、助言を頂いたり、教え合ったり、励まし合ったり、持ちつ持たれつ喜怒哀楽を共にしながら生活を送っている。利用者も身近にいる人として職員に関わってくださっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	離れて暮らしているご家族の気持ちを察し、来訪時や毎月のお便り、電話などで、連絡を密にしながら、ご本人の状態を共有し、家族の意向をお聞きしたり、良好な関係が築いていけるよう心がけている。また職員が全てを支援するのではなく、家族として本人のためにできることは協力して頂いており、共に支えていく関係作りもしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の他に知人の面会があったり、定期的な外泊や馴染みの人との外出。手紙のやり取り。馴染みの理容室の利用や地域へのドライブ。馴染みの店へ行き外食や買い物など必要に応じて、個々の関係性を保つ支援に努めている。利用者もとても喜んで下さっている。	利用者がこれまで大切にしていた知人、友人とのつながりが保てるように日々のかかわりの中で人間関係や地域とのつながりを聞き出しなじみの美容院や飲食店への外出支援を行っている。又、墓参り等も個別に支援しており、なじみの関係は保たれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係を把握し共に生活する中で状況に応じた関係調整をしながら利用者同士が支えあい、楽しく生活できるよう心がけている。適度な距離感を大切にし、自分の時間をくつろいで過ごす事も大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院のため退居になられた方のお見舞いに利用者と一緒にいたり、退居された方のご家族が近況を伝えに来られたりということもあり、相談に乗ったりアドバイスをしており契約が終了しても関係を断ち切らないよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人がその時に何を望んでいるのかを把握できるよう、信頼関係作りを普段より心がけている。本人やご家族とコミュニケーションを密にとることで希望の表出が盛んとなり、個々の希望が叶えられる様柔軟に対応している。また希望は引き出せても職員だけでは対応しきれないこともあり、難しさもあるが、本人やご家族と相談しながら対応している。	本人がどのように暮らしたいかを理解するために本人と一対一で向き合い時間を取って話を聞き本人の意向を聞いて出来るだけその意向に沿うように支援している。センターシートのA及びBシートは1年で見直し、CDEシートは半年で見直して絶えず最新の意向の確認に努めて	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族と馴染みの関係を築きながら入居者個々の習慣や嗜好などの情報をセンター方式のアセスメントを利用し、順次記入していくことで生活歴を細かな点まで把握できるようにしている。また入居されてからの状態の変化に合わせ定期的に更新できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を観察した中で記録として残し、得た情報を職員間で共有したり、適切なケアが行えるよう会議などで検討している。利用者個々に寄り添いながら、好む活動をケアプランに取り入れたり不安定となりやすい状況を作らないよう配慮するなど個々の現状を把握しながら工夫している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中での気づきや、本人、家族からの意見、要望などからケアのあり方についてモニタリングを毎月行い、スタッフ会議やミーティングで検討し利用者の変化や希望に添った介護計画を作成している。4月より2ヶ月ごとの介護計画の作成としているがケアプランの実施状況や効果などをじっくりと検討できる利点も感じながら介護支援専門員を基に担当やチームとして作成している。	介護計画の作成に当たっては法人内の各グループホーム管理者や計画作成担当者との毎月の会議で計画内容を細かく検討している。モニタリングは毎月行っており、それに基づき2ヶ月に1回計画が作成されている。介護計画は利用者やご家族の希望に沿った計画になっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	フォーカスチャータリング用紙には本人について医療的な事、普段と変わった言動、要望や過ごし方などを記録したり、チェック式のケア記録には提供したケアの内容や予定、注意点などを記録し日々の様子が良く分かるようにしており、読み返すことでニーズや問題の頻度など、本人に必要な支援や状態の変化等に気づき、介護計画やサービス提供に活かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	下肢筋力が低下された方は理学療法士に相談しアドバイスをもらったり、成年後見制度を利用し、今後は気にする利用者には専門的なソーシャルワーカーへ相談し安心へつなげたり、デイケアの休日にフロアを利用して気分転換を図ったり、趣味を活かして外部から個別的な支援を受けたりと普段と違う過ごし方の支援をすることで利用者のニーズに柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的にボランティアの来訪や幼稚園児との交流も続いており、利用者の楽しみとなっている。また市立図書館や渡辺美術館を利用したりと利用者の意向に沿い地域の協力を得ている。民生委員の協力が得られ地域の行事に参加したり、地域の方たちとも様々な形で交流が広がっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	認知症に関しては法人内専門医を主治医とすることを入居時に本人、家族と話し理解していただいている。他科受診は協力医、または本人や家族が希望とする医院(以前のかかりつけ)への受診も支援している。夜間も当直医や看護師の協力が得られ利用者、家族の安心につながっている。	入居前に本人やご家族と話し合っかかりつけ医を確認し、希望する医療機関で受診が出来るように支援している。通院介助は原則としてご家族だが都合の付かない場合などは職員が対応している。ご家族と職員は受診記録情報を共有し日々のケアに活かしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホーム担当の外来看護師と日常的に情報交換しており、利用者の状態を理解してもらっている。些細な変化を報告、相談し受診の必要性の判断やアドバイスをもらいながら健康管理に役立っている。看護師を通すことで医師との連携もとりやすい。利用者にもなじみの関係となり安心できる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	日頃から同一法人内の医療関係者と円滑な関係作りを心がけ、入院は病棟職員や担当ソーシャルワーカーとの情報交換をしながら早期退院に向け病院側もグループホームの生活レベルまでの回復を目標に取り組んでもらっており強い。他医療機関への入院の際も担当ソーシャルワーカーと協働し情報交換が密に行っており安心できる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の説明で重度化した場合や終末期においては、グループホームとしてではなく、法人全体としてケアに取り組むことを伝え理解を得ている。状態の変化に応じて家族、職員で話し合いを持ち、さらに重度化した場合は主治医、ソーシャルワーカーなどとも連携をとりながら今後の方針を決定したり、退居となっても法人内で継続した支援が受けられるよう配慮している。	重要事項説明書に重度化した場合の対応について明記されており、入居後に重度化した場合には早い段階で本人やご家族、主治医、ソーシャルワーカー等と話し合いを持つようになり、グループホームを退去しなければならない場合でも法人全体で支援する体制を整えている	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防訓練や救急対応については学びの機会を多くもてるよう取り組んでいる。更に定期的な研修の機会を増やし職員の不安を軽減したい。マニュアルがあり急変時にも速やかに対応できる医療機関との連携が昼夜問わず備わっている。入居者個別の救急時の対応希望についても家族に確認しあわせて対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難経路の把握や避難訓練も定期的に行っており、火災報知機、スプリンクラー、消火器の設備が備わっている。夜勤者は1人のため不安はあるが、緊急連絡網を作成しており、すぐに駆けつける体制をとっている。また運営推進会議でもよく議題として取り上げ家族や地域の理解、協力が得られるよう働きかけている。	自動火災報知設備、火災通報装置、スプリンクラー等の設備は完備しており、防火管理者を選任して火災、地震、台風等を想定しての避難訓練を行っている。地元住民の協力が得られるように運営推進会議や日々の地域の方とのふれあいの中で働きかけている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	運営理念を基に意識を持ちながらケアに取り組んでいる。個々の人格やプライバシーを考慮し、トイレ誘導の声かけや介助の仕方など、個別に合わせた対応を心がけ、日々の様子や表情の変化等にも注意を払いながら、その場の状況にふさわしい対応となるよう心がけている。また長年の関係性が慣れ合いにならないよう日々のケアを振り返りながら注意していきたい。	スタッフ会議やミーティング等で尊厳を大切にしたい言葉使いや対応について話し合う機会を設け、日々のふれあいの中で利用者の表情や行動を理解し、トイレ等は小さな声で誘導したり、居室のドアを開けるときには声かけをして丁寧な対応をするようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活全般において本人の意思や希望が表しやすい状況を作るよう心がけたり、意欲低下がある方にも積極的に働きかけをし、本人の意思が実現できるよう心がけている。また、待つ、見守る姿勢を心がけ信頼関係を築く中で個人的な希望などが表出されやすく、その思いを実現できるよう取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の流れは利用者本人がある程度決められ、それぞれの能力や個別の好みに合わせた生活となるよう支援している。自分のペース作りが難しい方にはメリハリのある働きかけで生活のリズムが作れ、意欲向上につながる生活が送れるよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望により家族がいきつけの美容院に継続して連れて行ってくださったり、白髪を染めてくださったりしている。外出先に合わせ服装を考えたり、好みでマニキュアを塗って気分転換したり、個別に好みの化粧品を購入することも自然と行っている。普段の生活の中でも過ごしやすく、くつろいだ雰囲気的身だしなみとなるようさりげない支援を心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや旬の食材を話し合っって献立に取り入れたり、能力や興味に合わせ調理、盛り付け、配膳、食器洗い食器拭き等に携わって頂いている。職員も一緒に食べ、楽しい時間となるよう心がけている。馴染みの物や自分で選び購入した茶碗などを使用している。外食したり旬のもの、好みのものを食べ喜びを味わう機会も作っている。	利用者は職員と一緒に買物に出かけたり、下ごしらえや片付け等それぞれが出来る範囲で積極的に参加しており、職員の見守りや声かけで力を発揮している。ベランダで栽培したトマトや野菜等の頂き物をメニューに取り入れており、職員も一緒に同じものを食べ、会話を弾ませながら信頼関係を作っている	屋食のみは利用者と職員が作っているが朝食と夕食は配食となっているので出来れば3食とも施設内で作るようにして欲しい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量、塩分量、調理の仕方など個人の健康状態に合わせて対応している。食事摂取動作に困る方は近くの席で食事をしてさり気なくフォローしたり、水分摂取については各々で1日のトータル量がわかるよう記録したり、室温や入浴の有無によってもこまめに促している。栄養士にチェックしてもらいバランスのよい献立となるようアドバイスをもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し、毎食後の口腔ケアは個々の能力に合わせ、声かけ、見守り、付き添いをしたり、義歯や歯ブラシの定期的な洗浄も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	適切なトイレの仕方や誘導の間隔を個別に見極めて支援することで、状態に応じた排泄ケアが行えるよう心がけている。失禁の際は清拭を行い、清潔保持や不快の除去に努めている。また夜間は少しでも安眠を図れるようパットのサイズを検討したり誘導時間を本人と話し合い、工夫検討している。	排泄チェック表や行動で一人一人の排泄パターン、生活習慣を把握し、職員間で共有しながらさりげなくトイレ誘導を行い、気持ちよく排泄できるように支援している。日中には布パン、夜にはリハパンと使い分けながら自立に向けて支援している	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多めにバランスのよい食事作りを心がけている。適度な運動を心がけたり、水分量摂取量もチェックし主治医と相談しながら下剤の調整を行っているが、下剤に頼らず排便がスムーズになるよう、個々に合わせヨーグルトを摂取したり工夫している利用者もいる。排便チェックを行い不審な言動と排便の関係がないか気を配っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日午前から夕方まで時間を問わず希望に応じて入浴できるようにしている。隔日希望の方や3日に1度など、希望に応じ利用していただいているが、気分や状態を考慮しながら無理強いせず本人の気持ちが向くときにゆったり入浴を楽しめるよう支援している。好みの入浴剤や、自分で髪を剃ったりとゆったりリフレッシュできるよう配慮している。	1日を通して入浴できる体制を整えており、毎日入浴する利用者又、3日に1回を希望する利用者等それぞれに合わせた対応をしている。入浴を拒む利用者にはストレスを与えないように優しく対応し、タイミングを図りながら入浴をうながし、入浴剤等を利用して入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの習慣や体力、生活状況を把握し、体調や希望に応じ自由に休息していただいている。安心できる環境を整え安眠につなげたり、日中適度な活動を促しているためか、生活リズムが整い眠剤に頼らず安眠できるようになる傾向がある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方の変更などその都度情報を共有し作用を観察しながら服薬管理している。健康状態の変化を観察しながら適宜担当看護師、主治医に報告し個人の状態にあった処方となるよう配慮している。処方薬の解説はいつでも確認できるようファイルしており職員同士でも情報を共有できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好みの新聞を取ったり、日課の散歩や、自らすすでの歩行訓練、日記書きや計算ドリルなど、各々が得意分野を活かしたり能力低下を防ごうと意欲的に取り組む様子が見られる。気晴らしに少人数で外食に出かける機会も定期的に持ったり、皆で出かけることも行っている。一人ひとりの生活歴を把握し、興味の持てることを取り入れ、日々の生活が楽しく送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム内に閉じこもることなく、外へ出ることを大切に考え、日常的な買い物などの外出の他、故郷の姉に会いに行ったり、図書館、好みの場所、馴染みのある所、季節を感じる所、散歩やドライブなど、外出の機会を持っている。地域の行事に出かけるとお世話を下さったり地域の方の協力もある。昨年度は初めて行事で若桜鉄道の旅にも皆で出かける乗客、高校生から席を譲ってもらった。	食材の買物や近隣の散歩等日常的に外出を行っている。季節に応じて手作りの弁当を持って花見やドライブ等や普段なかなか行けない所へも行っており、少人数で喫茶店へ行ってケーキセットを食したり、なじみの場所に出かける等外出の機会を多く取り入れている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員ではないが家族と相談の上、小額のお小遣い程度のお金を所持していただいている方も数名ある。自分の必要品は自分で選んで購入する機会もあり、各々の能力に応じた支援が出来るよう、買い物のお金を大切にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	なかなか会えない家族からの電話があったり、本人が電話をかけることも多く見られる。自ら手紙を書き返事を楽しみにしている様子があったり、毎年年賀状を出したり、利用者個々が家族とのつながりを大切にできるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気の中で、季節感を取り入れた壁面づくりや装飾を利用者と一緒に取り組んだり、季節の花を活けたりしている。リビングは日当たりよく明るい環境で、調理の匂いや皆の会話を感じられたり、金魚の世話ができたり、歌の好きな利用者の為にBGMを流すと自然と口ずさんだり、居心地の良い家庭的な雰囲気となるよう心がけている。	出入り口が開放されており気軽に訪問しやすい雰囲気がある。広くて明るいリビングや和室があり、利用者の生活に合わせてテーブルやソファが配置されている。通路部分にはテレビや椅子を置き少人数でゆっくり過ごせるスペースもある。季節の花を飾り季節感が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファや椅子、テーブル、和室があり利用者がそれぞれにテレビを見たり、新聞を読んだり、気の合う者同士で会話したり、心地よく過ごせる場所がある。自然と自分の座る場所が定着している面もある。家族や知り合いなどの来訪時には各居室や談話コーナーなどでお茶を飲んだり、話をしたり、他者に気兼ねせず、思い思いに過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けの家具があるが、入居時には馴染みのある物の持ち込みを促し、花や人形、写真など好みに合わせて飾りつけられ個性がある。本人や家族と相談しながら、少しずつ好みの物が増えたり、位牌や夫の写真をかざり毎日お経をあげお茶を供えたり、机で書道や読書する姿もあり、身体の状態に応じて家具の配置を変えるなど、心地よく過ごせる馴染みの空間となるような居室作りを心がけている。	日常生活になれ親しんだ寝具や生活用品、置物、仏壇等利用者の個性が感じられる空間となっている。趣味の品を持ち込んで楽しんでいる。居室の中が直接見えないように暖簾をかけて居心地良く過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用部分は分かりやすい表示に努め、歩行に不安がある方も廊下や浴室に手すりが多く設置しており、安全な歩行がしやすい。ベッドからの起き上がり困難な方は、家族と相談しベッドに手すりを取り付けることで自立できるよう支援している。フロア内のダスキンマットはめくられたり、つまづかない様テープをはり、転倒防止する等工夫している。		